

新潟地方気象台（令和7年6月19日発表）によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高くなり、特に期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

毎年、気象が大きく異なり管理が難しい環境ですが、基本技術の励行と高温対策に取り組み、稲体の活力維持に努めましょう。また、気温・湿度の高い時期のため、熱中症対策として水分補給と休憩を適度に取り、体調管理にも気を付けましょう。

稲作技術情報

『中干しの終了時期』

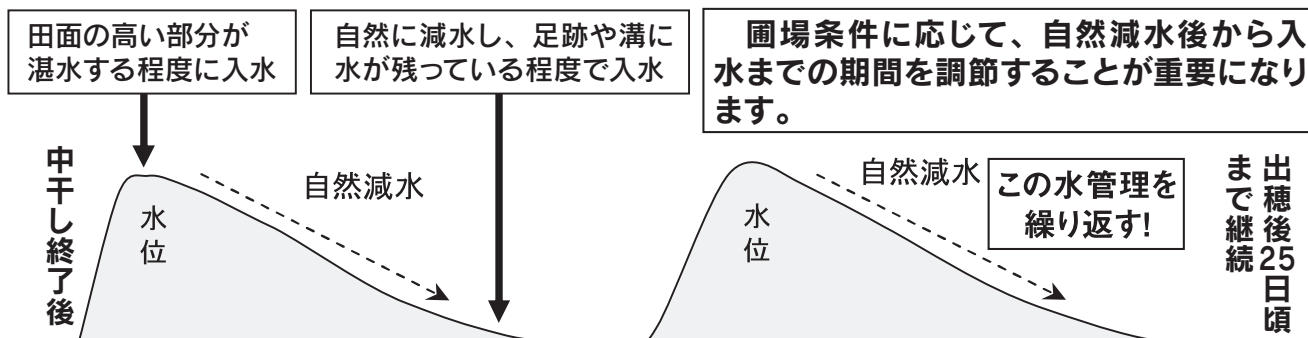
～終了後は適正な水管理に移りましょう～

7月に入ると幼穂の形成が始まります。中干しが長引くと根域の縮小や水分ストレス等により整粒歩合の低下が懸念されます。そのため、遅くとも出穂1か月前まで（7月上旬）に中干しを終了し、葉色の低下防止に努めましょう。

【中干し終了後からの水管理イメージ図】

中干し終了後から特に水が必要な時期になりますが、常時湛水する必要はありません。

自然落水をして、足跡に水が溜まっている箇所が散見されたら入水するようにしてください。



※地温上昇を抑えるには、灌水時間は晴天日では午前中、曇天日では朝が望ましいです。

【中干し後の積極的なケイ酸の追肥で強い稲づくりと品質向上に努めましょう!】

～ケイ酸の吸収率が高まる中干し後に施用することで期待できる主な効果～

稲体の活力維持（根の水分吸収力の向上、葉面温度上昇抑制）と病害への抵抗性増加
→ 特に高温年での品質低下を軽減！

中干し終了後～7月10日頃にケイ酸質資材を20～40kg/10a程度施用しましょう！施用する場合は、浅水または湛水状態で散布してください。

～ 水は大切な資源です。～

かけ流しは行わず、地域内で最大限に水を活用できるようにご協力をお願いします。

『適期穂肥』

～2回目時期に重点を置いた穂肥で出穂期の葉色確保(後期栄養確保)を図りましょう～

昨年は高温で、晴天が少なかったため例年になく葉色が濃く1回目の穂肥は見送られる傾向でした。また、天候も影響して下位節間の伸長が著しく、倒伏の一因となりました。

近年、天候の変化が激しいため、長期予報などを参考にしながら、穂肥の効果と注意点を確認し、適期穂肥で後期栄養確保を図りましょう。

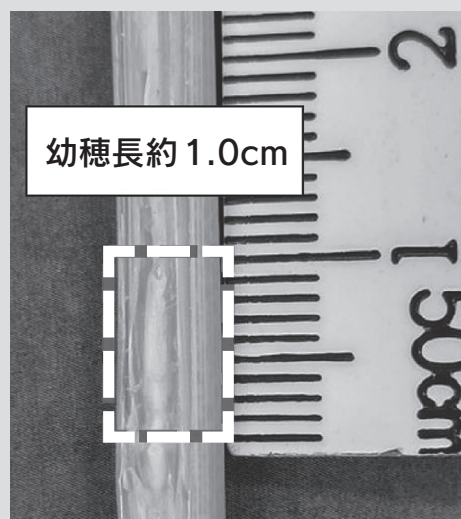
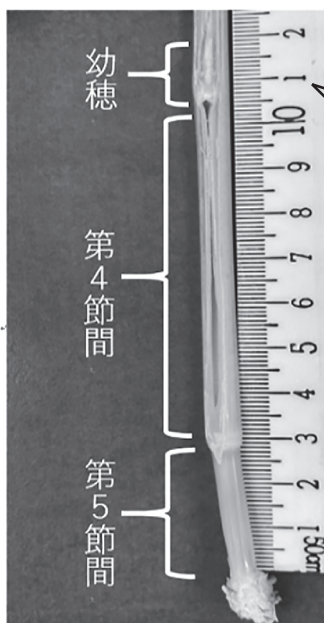
1. 穂肥時期の主な効果

区分	通常年		高温年は施用を検討
	加減した施用	必ず施用	
施肥時期	1回目時期 (出穂18日前)	2回目時期 (出穂10日前)	3回目時期 (出穂3日前まで)
効果	籾数の確保 → 収量の安定化	籾の充実度向上 → 後期栄養確保による 登熟向上・品質低下防止	出穂前の葉色の回復 → 品質の安定化
注意点	下位節間の伸長に影響するため、2回目の時期に施用できるように加減した施用が重要！	後期栄養の確保に繋がるため、確実な施用が求められるが、過剰施用とならないように気を付ける。	葉色が淡いときの緊急的施用で、高温年は施用を検討する。追肥時期が遅くなるほど、玄米タンパク含有量が上昇するため要注意！

2. 1回目穂肥時期の施用判断と施用量の加減目安

～1回目穂肥時期～

出穂期18日前後（幼穂長0.5～1.0cm）



生育量によって、穂肥の施用量などが変わります。

幼穂長や生育は圃場間差があるため、圃場ごとに確認し2回目穂肥が確実に施用できるよう、適正な穂肥を実施しましょう！

写真：R4営農指導課撮影

幼穂の確認方法

- ①圃場の平均的な生育の株から、最も長い茎を根っこから採取する。(3～5か所から採取)
- ②カッターで茎を割るか、手でむいて幼穂を確認する。

【幼穂の長さとお穂前日数】

				1回目時期		2回目時期
幼穂長	0.02 cm	0.1 cm	0.2～0.4 cm	0.5～1.0 cm	4.0～6.0 cm	8.0 cm
出穂前日数	30日前	24日前	20日前	18日前	12日前	10日前

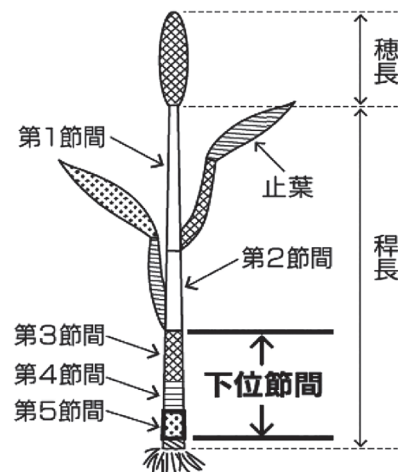
【幼穂確認時に「下位節間長」も確認しましょう！】

幼穂確認時に、倒伏との関連が高い下位節間長を確認しましょう。第5節間が大きく伸びている場合は倒伏リスクが高くなるため、1回目の穂肥は減肥等の調整を検討しましょう！

節間	節間長の目安	伸長時期	平均値※	令和6年度
第5節間	3cm	出穂前29～20日	5.3cm	6.8cm
第4節間	9cm	出穂前23～13日	10.7cm	12.1cm
第3節間	15cm	出穂前16～4日	15.8cm	18.8cm

※平均値:令和1～5年平均

令和6年は下位節間が近年で最も長くなりました。



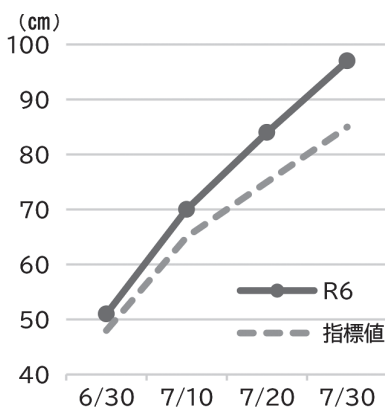
【出穂後の穂体のイメージ図】

令和6年の草丈は7月上旬から著しく伸長しました。

倒伏軽減のためには、適正生育量と穂体活力の維持、稈長を過度に伸長させないための栽培管理が必要となります。過剰生育を防ぐために適期中干しと併せて、生育状況に合った穂肥施用を徹底しましょう。

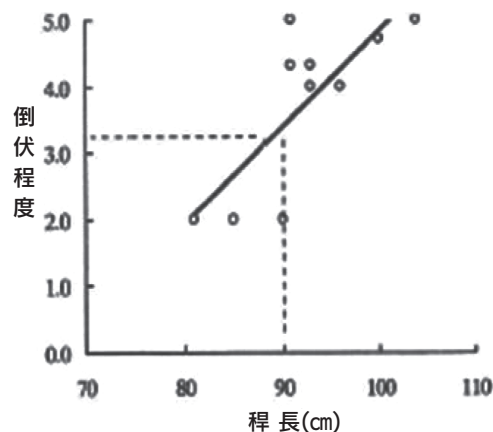
【草丈の推移】

(管内平均)



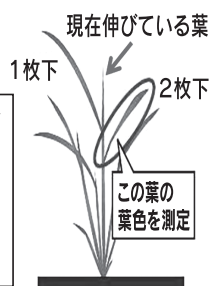
【稈長と成熟期の倒伏程度の関係】

(S55～H13年、作研セ)

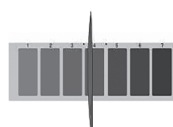


葉色の測定方法

- ① 平均的な生育の株で最も長い茎を選ぶ
- ② その茎の中で、現在伸びている葉の2枚下の葉を選ぶ。
- ③ 5～10株程度を測定し平均する。



葉色カースケール



単葉測定の場合は、群落測定より0.8程度濃く見える

葉の色が一番近い葉色板の数値を読む。
中間の数値は0.5単位まで(4に近ければ4.0、3と4の間の場合3.5)

葉緑素計「SPAD-502」



葉の真ん中のスジを避け、葉の長さの2/3くらいの箇所を測る。

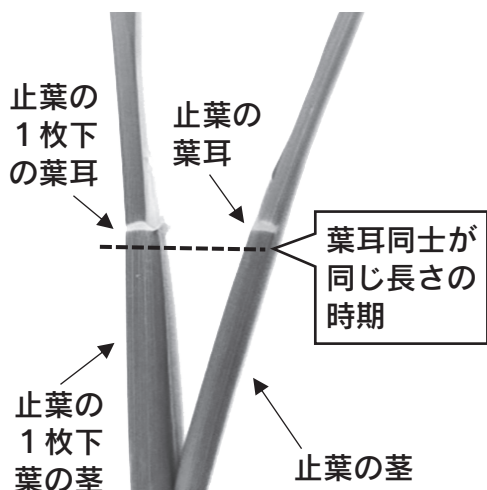
【コシヒカリ施用時期と施用量の目安表】 診断時期：幼穂長1.0cm（出穂前18日）

草丈	葉色	10a当たり施用窒素量目安 (出穂前日数)		
75cm 以下 ➡	薄い	群落2.5、単葉3.5	1回目	1.5kg (18日前)
		SPAD30以下	2回目	1.0～1.5kg (10日前)
	並み	群落2.5～3.5、単葉3.5～4.5	1回目	1.0～1.5kg (18～15日前)
		SPAD30～34	2回目	1.0～1.5kg (10日前)
	濃い	群落3.5、単葉4.5	1回目	0～1.0kg (15日前)
		SPAD35以上	2回目	1.0～1.5kg (10日前)
80cm 程度 ➡	薄い	群落2.5、単葉3.5	1回目	0.5～1.0kg (18日前)
		SPAD30以下	2回目	1.0～1.5kg (10日前)
	並み	群落2.5～3.5、単葉3.5～4.5	1回目	0.5～1.0kg (15日前)
		SPAD30～34	2回目	1.0～1.5kg (10日前)
	濃い	群落3.5、単葉4.5	1回目	施用しない
		SPAD35以上	2回目	1.0～1.5kg (10日前)
85cm 以上 ➡	薄い	群落2.5、単葉3.5	1回目	0.5～1.0kg (18日前)
		SPAD30以下	2回目	0.5～1.0kg (10日前)
	並み	群落2.5～3.5、単葉3.5～4.5	1回目	0～1.0kg (15日前)
		SPAD30～34	2回目	0.5～1.0kg (10日前)
	濃い	群落3.5、単葉4.5	1回目	施用しない
		SPAD35以上	2回目	0.5～1.0kg (10日前)

3. 2回目穂肥時期の把握(出穂10日前)と確実な施用

2回目時期の穂肥は、登熟向上と品質低下を防止するため、確実に施用しましょう。但し、葉色の状況によっては減肥や無施用も考えられます。

【出穂10日前頃の稲】



止葉の葉耳（葉の付け根）と、その一枚下の葉の葉耳の間隔で出穂前日数を判断できます。

出穂前日数	葉耳間長
15日前	止葉の葉耳の位置が、1枚下の葉の葉耳から下に10cmの場合（葉鞘内に隠れている）
10日前	止葉の葉耳と1枚下の葉の葉耳が重なっている場合
5日前	止葉の葉耳の位置が、1枚下の葉の葉耳から上に10cmの場合

1回目穂肥の施用状況	想定される2回目穂肥	
	施用時期目安	窒素施用量目安
1回目パス（無施用） ➡	出穂12～10日前	1.0～1.5kg/10a
出穂前18～15日に1回目を施用 ➡	出穂10日前	1.0～1.5kg/10a
出穂前14～12日に1回目を施用 ➡	1回目施用から7日後	0.5～1.0kg/10a

4. 高温年は3回目穂肥の施用も検討しましょう

穂肥3回目時期とは、出穂3日前まで（走り穂が出る前まで）です。高温年で、葉色が淡く、後期栄養不足が懸念される場合は施用を検討しましょう。但し、施用時期が遅くなるほど玄米タンパク質含有量が高くなるため、注意が必要です。

【高温年が予想される場合の3回目穂肥目安】

新潟県農林水産部 水稻栽培指針より

3回目時期の使用肥料		判断時期・葉色めやす	施肥時期と施肥量
化学肥料を施用		出穂期3日前 葉色（SPAD値）31以下	出穂期3日前 窒素成分1kg/10a上限
有機50%肥料を施用		出穂期6日前 葉色（SPAD値）33以下	出穂期3日前 窒素成分1kg/10a目安
有機100%肥料を施用	標準的圃場	出穂期6日前 葉色（SPAD値）33以下	出穂期6～3日前 窒素成分1kg/10a目安
	低地力圃場	幼穂形成期 葉色（SPAD値）31未満	出穂期6～3日前 窒素成分2kg/10a目安

※基肥一発肥料を使用している圃場で、出穂後の高温が予想される場合は、葉色が淡い圃場について、出穂期10日前頃に穂肥施用が必要になります。

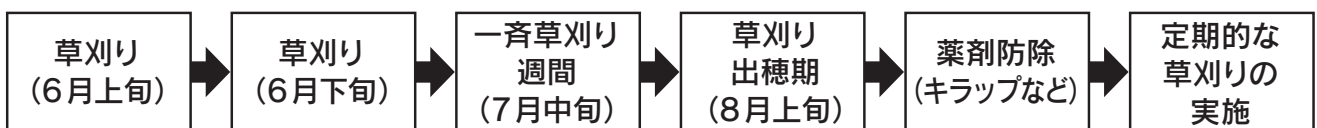
3回目の穂肥や全量基肥施用時の穂肥対応について、詳しくは営農指導課までご相談ください。

5. 病害虫防除について

令和6年度は全国的にカメムシ発生が多く、管内でもカメムシ被害による格落ちが増加しました。近年の高温傾向により、発生の増加が予想されます。圃場内外の除草と併せて、薬剤散布で事全の対策に取り組みましょう！

カメムシの生息地を減らすために、6月中下旬と7月中下旬に草刈りを行い（3週間程度の間隔）、斑点米被害を抑えましょう！

【草刈りの実施例】



防除の基本は「予防」です！昨年、カメムシ類の発生が多かった圃場は特に注意しましょう！

病害虫	薬剤名		散布量 (10a当り)	散布適期
斑点米 カメムシ類	キラップ	粒剤	3kg	出穂期10日前～出穂期
		粉剤DL	3～4kg	出穂期3日後～7日後 (穂揃期～)
		フロアブル	1,000～2,000倍液 60～200ℓ	
	エクシード	粉剤DL	3kg	出穂期3日後～7日後 (穂揃期～)
		フロアブル	2,000倍液 60～150ℓ	
いもち病	ブラシン	粉剤DL	3～4kg	葉いもち：発病初期 穂いもち：出穂期
		フロアブル	1,000倍液 60～150ℓ	
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL		3～4kg	出穂20日前～10日前まで
紋枯病	バリダシン粉剤DL		3～4kg	出穂期10日前頃～出穂期直前
	モンガリット粒剤		3～4kg	出穂期21～14日前頃

基本技術の励行による丈夫な稲づくり!

穂肥指導会のご案内

多くの方よりご参加をお待ちしております!

基本技術の励行による品質・収量の高位安定化!

「反収8.5俵・1等米比率95%以上を目指した基本技術の励行」

開催日程表《大和会場》

東地区

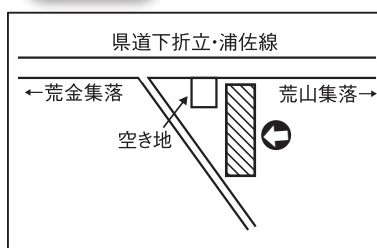
《雷土》



開催日時

7月15日(火)
夕方 18時30分~

《桐沢》

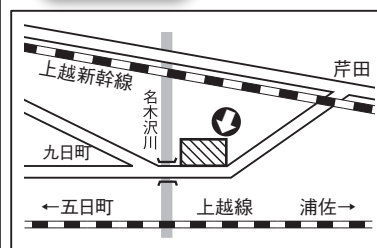


開催日時

7月15日(火)
夕方 18時30分~

藪神地区

《九日町》

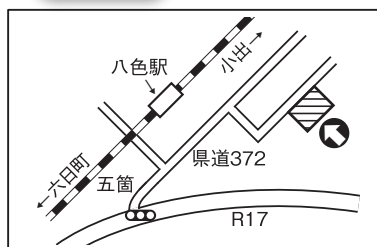


開催日時

7月15日(火)
朝 6時~

浦佐地区

《五箇》

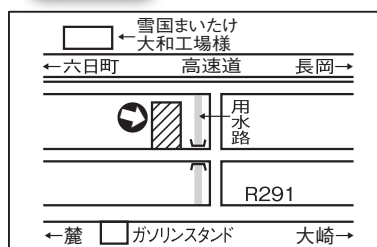


開催日時

7月15日(火)
朝 6時~

大崎地区

《氷尾》



開催日時

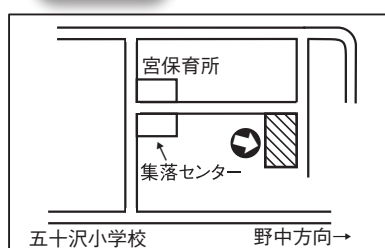
7月14日(月)
夕方 18時30分~



開催日程表《六日町会場》

五十沢地区

《宮》



開催日時 **7月14日(月)**
夕方 18時30分~

城内地区

《新堀》



開催日時 **7月14日(月)**
夕方 18時30分~

六日町地区

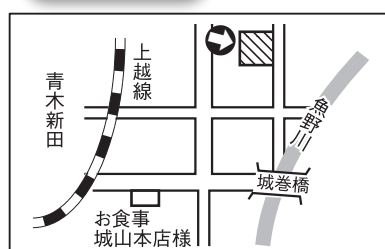
《欠ノ上》



開催日時 **7月15日(火)**
朝 6時~

大巻地区

《青木新田》



開催日時 **7月14日(月)**
夕方 18時30分~

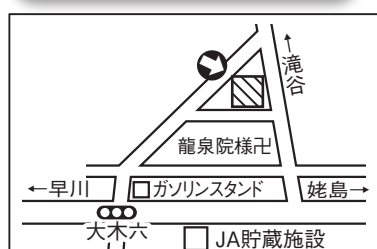
指導会参加の際には自身の
圃場の出穂期確認のために、
カッターナイフと圃場から稲
を数本根元から抜いて持って
きてください!



開催日程表《塩沢・湯沢会場》

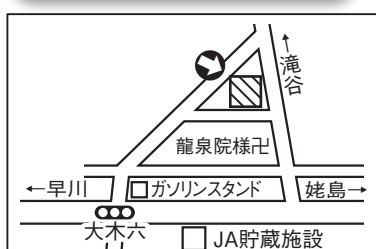
塩沢地区

《しおざわカントリー》



開催日時 **7月12日(土)**
朝 7時30分~

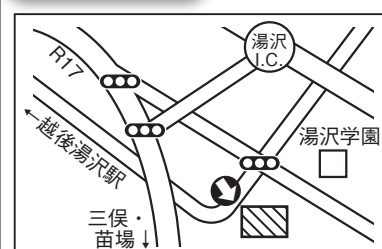
《しおざわカントリー》



開催日時 **7月15日(火)**
夕方 18時00分~

湯沢地区

《湯沢支店》

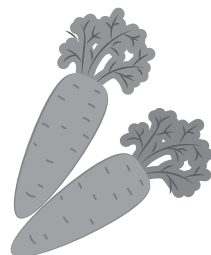


開催日時 **7月16日(水)**
午後 13時30分~

園芸技術情報

☆ニンジン (年内収穫)

7月上旬～中旬までに播種しましょう。ニンジンの発芽適温は15～25℃です。生育初期は高温乾燥期に当たりますが、比較的作りやすい安定した作型です。品種は耐暑・耐病性で形状・色・肥大性にすぐれたものや、耐寒性があり在園性のあるものを選びましょう。



1. 主な品種と特性

品種	収穫日数	根重 (g)	根形	根色	根長 (cm)	耐病性
ひとみ五寸	110日前後	200	やや肩張り円筒形	濃紅橙	18	強

※ J A 資材店舗在庫切れの場合は、取り寄せとなる場合もございます。ご了承ください。

2. 播種

種の必要量は、6～8ml/10㎡です。軽い土では1cm程度に、重めの土では種子が隠れる程度に覆土をし鎮圧をしましょう。

【条播の場合】

畝幅75～80cm、株間1cm(ペレット種子は3cm)、条間25～30cmの2条蒔きにする。

【点播の場合】

畝間75～80cm、株間10～12cm、1カ所5粒蒔き、条間25～30cmの2列蒔きにする。

ペレット種子について

ペレット種子は播種後しっかりと水をかけるようにします。一度吸水した後に、乾燥するとペレットが硬くなり発芽できなくなるので、水分が切れないうちに注意が必要です。裸種子より水分を多く必要とします。



発芽するまでに土壌が乾燥すると極端に発芽率が低下します。特に夏播きでは播種してから発芽までに8～10日ほどかかるので、この間は乾燥防止のため、モミガラやワラを敷くか、寒冷紗などをかけましょう。また、晴天が続き土壌水分が少ない時は、灌水を行いましょう。

3. 間引き

発芽後50日間(本葉7枚程度)くらいで根長がほぼ決定されます。この時期は特に乾燥と肥料不足に注意して、適時間引きを行い、スムーズに生育させることが大切です。

《間引き1回目》…本葉2～3枚です。点播は2～3本立ち、条播は3cm間隔を確保する。

《間引き2回目》…本葉5～6枚です。点播は1本立ち、条播は10～12cm間隔を確保する。

※最終間引き後に、速効性肥料を追肥し、うねの表面を軽く中耕し、同時に株元へ土寄せして青首にならないようにしましょう。

4. 施肥例

(kg/10㎡)

肥料名	元肥量	追肥量		備考
		1回目	2回目	
粒状苦土炭カル	2.0			追肥はそれぞれの間引き終了後に行う
苦土重焼燐	0.5			
MMB 燐加安	1.2			
NK 化成		0.2	0.2	

本葉5～6枚頃(太り始める前)がニンジンの一生で一番重要な時期です!! ニンジン栽培では間引きが重要なポイントとなります!!



5. 除草

播種後全面散布し、その後の作業を楽しみましょう。

(10㎡当たり)

	品名	使用時期	使用量・散布量	使用回数	使用方法
一年生雑草	クレマート乳剤	播種後発芽前(雑草発生前)	2～4ml/1～1.5ℓ	1回	全面土壌散布

☆キャベツ（年内収穫）

地域の環境（標高、気温など）と品種、収穫時期を考えて播種時期を決めましょう。

※湯沢地区では7/10頃、それ以外の地区では7/15～20日頃が目安となります。



1. 主な品種と特性

品種名	草姿	定植後 収穫日数	球			耐暑性 ※耐寒性	耐病性	裂球の 早晩
			重量 (kg)	形	色			
やひこ A号	やや立性	約60日	1.5	扁円 五角形	光沢緑	良	良	中

※J A資材店舗在庫切れの場合は、取り寄せとなる場合もございます。ご了承ください。

2. 育苗

一般的には直播をしないで、苗を育ててから定植します。

育苗方法		育苗日数	定植時葉枚数
①移植育苗	稲の育苗箱に10cm間隔ですじ蒔き。本葉1.5～2枚の時に6～9cmポット又は25穴のトレーに鉢上げする。	30～35日	3.5～4.0枚
②ポット・トレー 直播育苗	6～9cmのポリポット又は25穴のトレーに種を蒔く方法。1つに3粒程度蒔き、本葉が出たら1本立ちにする。	25～30日	3.5～4.0枚
③セルトレー 育苗	セルトレー（プラグポット）に培土をしっかりと詰め、1穴に1粒ずつ蒔く。乾燥しやすいので、こまめな灌水が必要。	20～25日程度	2.0～2.5枚

3. 育苗管理のポイント

【播種後～発芽までの管理】



播種後、内部に水分が行き渡るよう十分に水をまき、その後、トレーを新聞紙で覆い、その上からさらに水をまき新聞紙を湿らせ、直射日光の当たらない場所に置き発芽させます。播種後2～3日で発芽するため、双葉が開き始めたものが見えたら遅れのないように新聞紙を外しましょう。

【育苗中の害虫を防ぐ！】



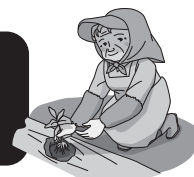
育苗期間のアオムシ、コナガなどの害虫対策として、苗床やトレーの上に播種直後から防虫ネットや寒冷紗をかけて管理をすると害虫の飛来を防ぐことができます。トンネル支柱を立て、防虫ネット等でトンネル全体を覆いましょう。下に隙間があると、害虫が侵入しやすくなるためしっかりと四方を土などで押さえましょう。

【トレー育苗での軟弱徒長を防ぐ！】



灌水はできるだけ午前中に行い、日暮れの前にはトレーがやや乾く程度にしておきます。夏まき育苗の後半（播種後10日～14日以降）はできれば屋外で育苗し、風や夜露に当てて苗をしめます。トレーの土は乾きやすいので夏場は毎日灌水が必要となり、特にトレーの縁は乾きやすいので注意が必要です。

キャベツの栽培管理（施肥例、病虫害防除、定植等）は、あぜみちNo.6（8月1日号）でご紹介します!!



～ J Aからのお知らせ～

『令和8年度用肥料農薬申込書』での予約購買をお願いいたします

7月上旬に「令和8年度用肥料農薬申込書」を農家組合様経由で希望組合員へお届けします。
肥料情勢については、引き続き不安定な状況が継続する見通しであり、生産者の皆様への安定供給に向け「予約購買供給」は重要となっております。ぜひ、この機会に予約申込をお願いいたします。

また、「令和8年度用肥料農薬申込書」は各アグリセンターに準備しておりますのでご希望の方はご利用ください。

アグリセンター大 和 ☎777-2431 アグリセンター六日町 ☎773-6121
アグリセンターしおざわ ☎775-7488 アグリセンター湯 沢 ☎785-5313

【水分計点検のご案内】

J Aでは稲刈り前に水分計の点検を下記のとおり承ります。
ご希望の方は、期日までに各施設に水分計をお持ち込みください。

各施設	持込期日	点検を受ける際に必要な料金 ※修理等は別途料金
アグリセンター大 和	7月25日(金)	1,100円(税込) ※機種等により受検できない場合がございます。 ※新たに水分計をご注文される方は、各施設へお申し込みください。
アグリセンター六日町		
しおざわ農機センター 電話：782-0036		

アグリルックシステム(水稲圃場情報提供サービス)の活用について!

地域農業再生協議会とJAで連携し、気象変動に左右されない高品質米生産のため、情報提供体制を構築しています。是非ご利用ください!!

【人工衛星(アグリルック内)で圃場毎に確認できる内容】

- ・生育状況マップ・葉色マップ・生育トレンド(生育状況)
- ・最高、最低、平均気温・積算温度・出穂期予測・日射量・降水量

スマホやタブレットでも閲覧できます。
カメラアプリ(バーコードリーダー)を使って
QRコードを読み込んでください。

《アグリルックシステムへのアクセス》
<https://www.agrilook-info.jp/minamiuonuma/>
ユーザーID user パスワード user



SNSによる営農情報の配信(LINE)

JAみなみ魚沼では、LINEによる営農情報の配信を行っております。LINEでは、最新の気象情報や水稲、西瓜、園芸品目などの栽培情報などを配信いたします。

メール配信ではなかった、画像を添えた配信などもありますので、多くの方からのご登録をお願いいたします。
(スマートフォンアプリ/LINEをインストールする必要があります。)

スマホのカメラを起動し、
左にあるQRにかざすと
読み込めるよ!



ご不明な点がございましたら、JA みなみ魚沼営農指導課までお問い合わせください。

◎アグリセンター大和 Tel777-3786 ◎アグリセンター六日町 Tel773-6121

◎しおざわ基幹センター Tel782-1171 - 10 -